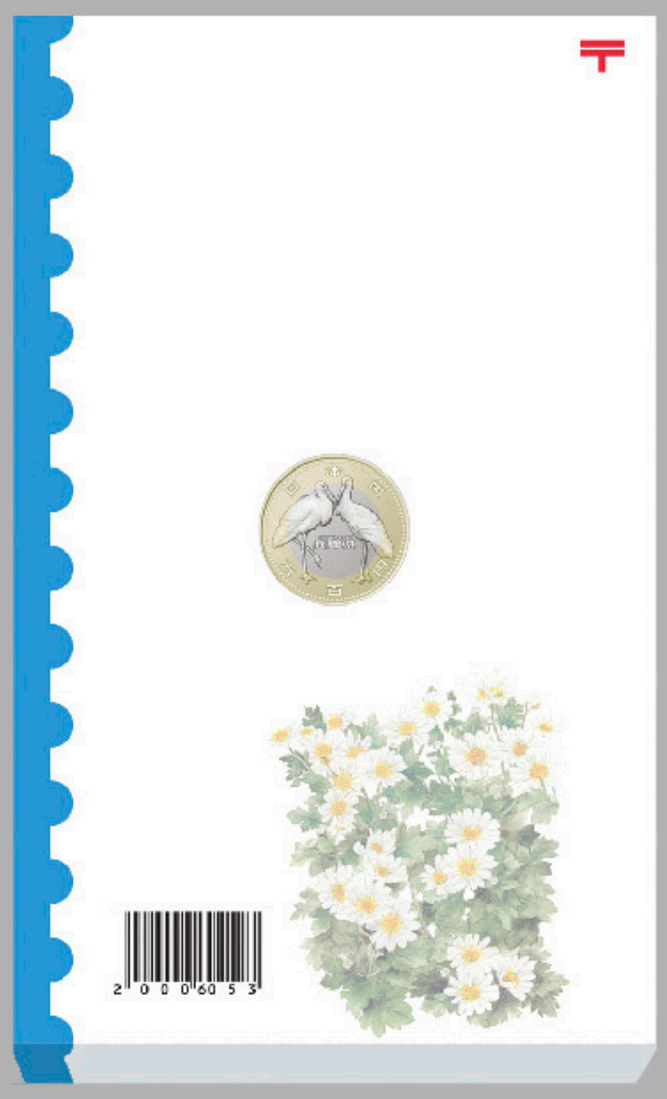
●ケース表イメージ

●ケース裏イメージ



●内側（三つ折り）イメージ

兵庫県

兵庫県は、かつての摂津国の一部（神戸・阪神）、播磨国、但馬国、丹波国の一部、淡路国からなり、これらの「国」は現在も地域としてそれぞれの特色を有しています。

1868年の開港以来、港町として時代の先端を担い、洗練された感覚や異人館、南京町など異国情緒ある街並みが広がる「神戸」、阪神甲子園球場や宝塚歌劇に代表される阪神間モダニズムが長く愛「阪神」。日本初の世界文化遺産に登録された姫路城や、我が国有数の生産拠点である播磨臨海工業地帯など、歴史と現代が生きる「播磨」。コウノトリが生息し、世界ジオパークに認定された山陰海岸など貴重な自然に恵まれた「但馬」。恐竜「丹波竜」の化石が発見され、黒豆など特産物の多い「丹波」。伊弉諾尊（いざなぎのみこと）、伊弉冉尊（いざなみのみこと）が日本を最初に造った国生み神話の舞台とされる「淡路」。それぞれに個性豊かな地域性を有しています。

兵庫県章

県旗は、北は日本海、南は瀬戸内海に面する兵庫県の「兵」の字を、海と山の自然にふさわしく躍動的に図案化し、金色の稲穂と黒さを表すオレンジ・ブルーと明朝鮮を示す白を配して、力強く発展する兵庫県の姿を象徴しています。昭和29年6月に一般公募した作品から選ばれました。

兵庫県の鳥（コウノトリ）

コウノトリは、絶滅が危惧されている特別天然記念物で、強い色彩に富んでいます。現在、県北部の豊岡地域では、かつての生息地である自然豊かな土地に放鳥を進めています。昭和42年5月14日に鳥の日に決定しました。

兵庫県の花（ノジギク）

ノジギクは、播磨灘の大蔵海岸に多く自生する野生のキクです。一見平凡ですが、実は美しいものです。茎には白く、ふわふわした花を咲かせます。昭和29年、NHKが県民の投票を選んだ中に、兵庫県の花に選ばれました。

5百円バイカラー・クラッド貨幣

バイカラー・クラッド貨幣とは、2種類の異なる金属を組み合わせる「バイカラー」技術と、金属板を異なる種類の金属板で挟み込む「クラッド」技術を組み合わせたものです。

（兵庫県）表面『コウノトリ』

○ つがいのコウノトリをデザインしています。
表コウノトリ：コウノトリ科に属し、成鳥は、全長が約115 cm、翼を開いたときの大きさは約2m弱になるものもある。昭和61年に日本国の個体は絶滅したものの、兵庫県において昭和60年にロシアから譲渡されたペアによる飼育下の繁殖に成功し、平成23年末現在で、約150羽まで増加。また、平成17年以降、試験放鳥を行うなどコウノトリを再び野生に戻す取組みが実施されており、野外での繁殖も順調に進んでいる。

（各都道府県共通）
裏面『古墳のイメージ』

5百円バイカラー・クラッド貨幣の概要

額面	5百円
素材	ニッケル黄銅、白銅及び銅
品位	銅75%、亜鉛12.5%、ニッケル12.5%
重量	7.1グラム
直径	26.5ミリメートル
その他の特徴	異形斜めギザ、側像等